第５章　石垣保存活用の理念

第１節　鹿児島城跡石垣の本質的価値

「石垣の復旧または修理を選択する場合は，特に理由がない限り廃城時の形態・意匠・構造を基準とする」という「石垣整備のてびき」及び「鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画」に示された基本的な考え方のもと，鹿児島城が辿った歴史的変遷という特色を考慮し，鹿児島城跡石垣の本質的価値を以下のとおり定める。

（１）本質的価値を構成する要素

ア　廃城時の状態を示す石垣本体

17 世紀初頭に構築され，その後，経年劣化や災害等に伴い修復を繰り返し形成された廃城時段階の石垣は，石垣が辿った歴史的変遷を示すとともに，各時期の構築技法が見られる。特に，御楼門桝形を中心に，近世後半の石垣構築技術が集中してみられる。

本丸北東部に位置する隅欠については，鬼門除けのための意匠であること，また，本丸北面の石垣に鏡石が多用されることなどは，築城に際しての当時の精神性を表すものとして重要である。特に隅欠については，絵図で鬼門除けのためであることが明示されている全国的にも稀有な石垣である。

イ　廃城時の状態を示す石垣背後の裏込

石垣背後に充填されている裏込は，城の排水管理と石垣の安定性の確保の構造を把握する上で重要である。

ウ　地中に存在する廃城時以前の石垣関連遺構

発掘調査により確認された本丸南側の堀跡の石垣や，過去の修復に伴ってその役割を終えた石垣などは，鹿児島城跡の曲輪や堀などの変遷を示すとともに，過去の構築技法を反映している。

エ　石垣に残された西南戦争の痕跡

廃城時以降に刻まれた痕跡ではあるものの，石垣に残された西南戦争時の銃砲弾などの痕跡は，近代最後の内戦という歴史的事象を表す鹿児島城跡の本質的価値の一端を表す重要な証左である。

オ　石垣に残された江戸期の石組排水溝

鹿児島城跡石垣には横長石組みとそれ以外の形状の石組み排水溝の２種類が存在するが，江戸期の石組排水溝は横長の形状のものである。城の構築の際に排水機能を重視していたことを示すものとして重要である。

城の正面に当たる東側の石垣には敢えて排水溝が設けられておらず，当時の精神性を表すものとして重要である。

（２）本質的価値に準じる要素

ア　溶結凝灰岩で構築された石垣

全国的にも珍しい凝灰岩溶結凝灰岩で構築された石垣。火山地帯である鹿児島ならではのものといえる。

イ　廃城時以降の修復等により構築された石垣本体

ウ　廃城時以降の修復等により構築された石垣背後の裏込

エ　明治期に石垣の上部に積まれた石塀

廃城以降の城跡の利用変遷を示す。

オ　石垣に残された太平洋戦争の痕跡

第２節　保存・活用に関する理念

鹿児島城跡の石垣保存活用の理念については，平成27年に文化庁が監修した「石垣整備のてびき」に示された「保存面に関する理念」と「活用面に関する理念」のそれぞれの項目に沿って，以下のとおり整理する。

ただし，実際の方針や整備方法については，鹿児島城跡全体と齟齬がないよう，令和６年度～令和７年度に策定する保存活用計画，令和８年～９年度に策定するの整備基本計画にて定めることとする。

（１）保存面に関する理念

ア　管理

①　本計画に定められた周期において定期的に日常的な観察を実施し，不測の毀損を防ぐ。

②　日常的な清掃，樹木管理，排水管理など，日常的な維持管理を実施し，異常が見つかった場合は原因究明を行い，改善する。

③　日常的な観察や維持管理の成果について，石垣カルテの追加・更新を行う。

イ　復旧（修理）

①　本質的な価値を構成する要素もしくは本質的な価値に準じる要素に含まれる石垣については，可能な限り旧材を使用し，伝統的技法・在来工法によって復旧（修復）する。

②　旧材を原位置から動かさないようにし，動かした場合には原位置に戻す。

③　旧石材に対する新たな加工は避ける。

④　やむを得ず新しく補充石材を使用する場合は同一の岩質のものを使用し，旧材と区別できるようにする。

⑤　復旧（修理）した箇所，範囲は石垣カルテに明示し，後世に情報を残す。

（２）活用面に関する理念

ア　本質的価値を評価する上での多様な属性・指標を学び理解すること

①　安全面・管理面等も考慮しつつ，可能な限り石垣の存在が認知できるよう，石垣を顕在化する。

②　「意匠・形態」「技術・技能」「材料・材質」「機能・用途」「精神性」の５つの属性に基づき，石垣の本質的価値について正確に情報提供する。

③　往時の築造技術（伝統的技法・在来工法・道具等）を継承する場として石垣を活用する。

④　修復等の優先順位については，危険度判定に本質的価値の要素を加味して検討する。

〈参考文献〉

阿比留士朗 2020「鹿児島城跡元禄以降の石垣について」『縄文の森から』第 12 号鹿児島県立埋蔵文化財センター
阿比留士朗 2021「鹿児島城跡元禄以降の石垣について（２）」『縄文の森から』第 13 号鹿児島県立埋蔵文化財センター
大木公彦 2024「石垣にはどんな石が使われていた？」
鹿児島県教育委員会 1982『鹿児島（鶴丸）城本丸跡』鹿児島県教育委員会発掘調査報告書（26）
鹿児島県教育委員会 1990『鹿児島城二之丸跡（遺構編）』鹿児島県教育委員会発掘調査報告書（55）
鹿児島県県民生活局生活・文化課楼門等建設推進室／株式会社中桐造園設計研究所 2017『御楼門部石垣保全整備工事に伴う施工監理業務報告書』
鹿児島県立埋蔵文化財センター2020『鹿児島（鶴丸城跡－御楼門周辺－』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（205）
鹿児島県立埋蔵文化財センター2021『鹿児島城跡（犬追物馬場・火除地）』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（211）
鹿児島県立埋蔵文化財センター2022『鹿児島（鶴丸）城跡－北御門・御角櫓・能舞台ほか－』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（214）
鹿児島県立埋蔵文化財センター2022『鹿児島（鶴丸）城跡－総括報告書－』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（215）
鹿児島県歴史資料センター黎明館 2001「鶴丸城石垣補修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　鹿児島城御角櫓跡」『黎明館調査研究報告第 14 集』
鹿児島県歴史資料センター黎明館・株式会社建設技術コンサルタンツ 2016『御楼門部石垣保全設計水理調査業務報告書，御楼門部石垣保全設計の修正及び事前調査・設計業務　事前調査報告書，測量成果簿，鶴丸城跡保全整備に係る御楼門部石垣保全設計の修正及び事前調査・設計業務　実施設計図書』
鹿児島県歴史・美術センター黎明館 2020『鹿児島の城館』
北垣聰一郎 1987『石垣普請』法政大学出版局
中井均 2024「全国の石垣からみた鹿児島城跡とその石垣の魅力！！」『鹿児島城跡国史跡指定記念石垣シンポジウム』発表資料
鶴丸城御楼門建設協議会・鹿児島県 2016『鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画』
鶴丸城御楼門建設協議会 2021『鹿児島県指定史跡鶴丸城跡五郎音復元整備工事報告書』
濱田晋一・櫃本聡子・麓和善 2021「鹿児島城本丸石垣における石材加工と石積み技術の変遷」『日本建築学会計画系論文集』第 86 巻第 785 号
文化庁文化財部記念物課監修 2015『石垣調査のてびき』同成社

鹿児島城跡石垣調査報告書

令和６年８月

編集　鹿児島県観光・文化スポーツ部文化振興課
　　鹿児島県歴史・美術センター黎明館

発行　鹿児島県観光・文化スポーツ部文化振興課
〒　890-8577　鹿児島県鹿児島市鴨池新町 10 番 1 号
TEL 099-286-2506　FAX 099-286-5537
Mail:kagoshima-c@pref.kagoshima.lg.jp